

# いしづち

2018.9

No.124

公益社団法人 愛媛県建築士会  
<http://www.ehime-shikai.com>



西日本豪雨被害について  
伝統建築物 大庄屋・門屋家  
スケッチ紀行 建築から草花、そして風景へ

1	西日本豪雨災害について 豪雨災害報告 西日本豪雨（西予市 野村町） 「建築士として…」	大洲支部 西予支部 松山支部	神田 孝一 ……① 渡辺 建文 ……② 白石 学 ……③
2	伝統建築物 大庄屋・門屋家	宇和島支部	酒井 純孝 ……⑤
3	スケッチ紀行 建築から草花、そして風景へ	松山支部	安藤 雅人 ……⑨
4	委員会報告 平成30年度 青年総会報告 平成30年度青年・女性建築士の集い 中四国ブロック香川大会の報告 中四国ブロック香川大会「分岐点」に参加して ブロック大会に参加して 平成30年度女性会員総会開催報告	副委員長 今治支部 四国中央支部 松山支部 女性委員会	長岡 康広 ……⑩ 重松憲太郎 ……⑪ 大西 千里 ……⑫ 大西 慶 ……⑬ 近藤 佳代 ……⑭
5	支部報告 伊予稲荷神社楼門塗装替え研修会	伊予支部	渡辺 大記 ……⑮
6	けんちくの輪 建築士会に入会して 宇多津の町を巡って	四国中央支部 宇和島支部	稲村 聡 ……⑯ 山田 千尋 ……⑰
7	ブレイクコーナー short short story 「HOUSE」 第一話 Bathroom		田真 夕楽 ……⑱

※ 尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



#### 水彩画

題：「伊佐爾波神社からの眺め」  
上田 勇一

#### 〔表紙画について〕

社伝によれば、仲哀天皇と神功皇后が道後温泉に来湯した際の行宮跡に創建されたという。登り切って振り返ると、緑の間から美しい光が差し込んでいた。これからも、光を追い求めて行きたい。

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

1974 東京生まれ  
1980 小学校から高校まで松山在住  
1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞  
1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞  
(愛媛県建築士事務所協会主催)  
1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ  
1996 日本工業大学建築学科 卒業  
1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催  
2002 日本ファンタジーノベル賞受賞者「世界の果の庭」  
(新潮社)の装丁担当  
2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)  
2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」收藏される  
2015~2017 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載  
2017 絵画教室やオリジナルブランド額工房「(株)リチェルカ」を設立  
「えひめの塗り絵」を出版  
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。  
現在、現代日本美術会 会員/審査員

(公社) 建築士会 会長 赤根 良忠

7月初旬の西日本豪雨により愛媛県では今治市、宇和島市、大洲市、西予市、松野町、鬼北町、八幡浜市が災害救助法の適用を受けるほどの大雨に見舞われ被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。特に南予地方での被害が大きかった様子で建築士会大洲・西予・宇和島支部の方には建築士会(建築士)としての被災住宅への様々な支援制度の行政協力に早速対応いただき感謝申し上げます。

本会としても建築関連団体として建築士事務所協会・建設業協会建築部会・中小建築業協会と共に各自治体への復旧・復興に向けた支援への対応依頼に協力すべく、7月27日には建築士事務所協会濱本会長・建設業協会森岡氏・建築士会宇和島支部水野支部長が宇和島市を訪問し、支援・協力の体制等について打合せを行い依頼内容の確認を行ったところです。

応急仮設住宅がまず158戸が8月中を目途に建設されることとなり被災住宅の応急修理等と合わせて工事に携われる方のご苦勞は相当なものと思われま。被災にあった建物には文化財の建築物もありこれらの修理・復旧についても建築士会として何らかの協力も行いたいと思います。

この災害の最中でも建築士会としての行事も随時開催しております、私の実家も浸水の被害に会い対応に追われる中、豪雨直後のヘリテージマネージャー今年度開講日には事務局職員が臨機に対応していただいたことをはじめ、事務局・会員の皆様の引き続き益々のご支援協力により通常業務・災害対応を遂行していきたいと思ひます。

被災にあわれた方々にとっては、まず生活の再建であり住宅の復旧だと思ひます。建築士会もこれらの手助けができる建築技術者集団として社会に貢献出来たらと思ひます。先の大阪での地震、続いて今回の豪雨と災害続きですが検証しておかなければならない事項もあると思ひます、発生してほしくありませんが確率の上昇した東南海地震などへの対応・準備をしておきたいと思ひます。まだまだ残暑厳しい日が続くと思ひますが体調管理を充分行い復旧に努められ一日も早く従前の生活に戻れることを祈念します。

□□□□平成30年7月豪雨災害に関わる義援金の募集について□□□□

今回の豪雨災害では、建築士会会員の方々の中にも被災し、日常の生活を取り戻すために頑張っておられる方も多数おられます。

愛媛県建築士会では、平成30年7月豪雨により被災された方々を支援するため、義援金を募集することといたしました。今回集まりました義援金は、愛媛県を通じて被災された方々へお届けすることとなっておりますので、温かいご支援をお願い致します。

○募集期間 平成30年9月1日(土)～平成30年9月30日(日)

○義援金の受付方法

次の金融機関に口座振り込みによりお願いします。

伊予銀行 愛媛県庁支店 普通預金○1005942 (公社) 愛媛県建築士会  
愛媛銀行 本店営業部 普通預金○3452707 (公社) 愛媛県建築士会

# 豪雨災害報告

大洲支部長 神田 孝一

先日の豪雨では大洲市を始め多くの地方で甚大な被害が発生しました。当地は平成7年にも被害を受けており、その後激甚災害指定を受け治水対策がなされました。しかし一部の堤防が暫定堤防となっており、その部分から浸水したようです。平成7年時とは比べ物にならない範囲で浸水が発生しました。自宅は床下浸水（あと10cmで床上）で済みましたが隣の母の家は床上浸水となりました。洪水の水位は見る間に上がって行き、自動車は避難する時間も無く浸かってしまいました。昭和18年の洪水以来の（堤防は有りませんでした）水害と思われます。朝から放送で避難指示を盛んに言っていました。まさか自宅まで浸水するとは思っていませんでした。

私の所はまだ良い方で自動車道インター辺りは3m近い水位となり被害甚大です。大変なのは床上浸水のアパート1階の方々です。家具その他すべてが廃棄になり、たちまち住む所がなかなか見つかりません。水源地のポンプ制御盤等が水没し広く断水となってしまう皆さん大変困った状態が続きました。自衛隊を始め多方面から給水車を派遣していただき、1週間程度で全市給水可能と

なったようです。廃棄物は大変な量となっています。2日目に処理場へ行くと、すでに廃棄物の山が出来ており3日目には満杯となっていました。災害より2週間たちましたがまだ至る所に廃棄物が積まれています。

多くの支援をいただき大洲市民の方々も頑張っております。

建築士会大洲支部会員の10名余り、賛助会員の9社が多大な被害に合われており、1日も早い復興をお祈りいたします。



大洲インター料金所辺り



自宅前車の水没状況



大洲警察署辺り



2日目ごみ集積状況



市内中心付近

# 西日本豪雨（西予市 野村町）

西予支部 渡辺 建文

まず最初に、今回の災害において亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。

ご存じの通り、7月7日早朝、大雨による野村ダム放流において西予市 野村町でも、甚大な被害が起きました。

野村町では、肱川氾濫により570棟の床上浸水があり、5人の方がお亡くなりになりました。

野村町中心部を流れる川の付近では、河川護岸よりも4～5m上まで、水位が上がっていました。

ダムが出来るまでには、数回河川氾濫があったと聞いていましたが、(特に昭和18年の水害が有名らしい)それ以後は、野村町では氾濫はありませんでした。

近年、異常気象のせいなのか、全国的に大きな被害が出ているように思われます。

河川形状が変わらず、再び同じ雨量があれば、同じ氾濫が起きることになり、被災者の方の中には、他の地域に出て行かれる方も有ると聞きます。

また、復興には、しばらくかかると思われます。

このような災害において、消防団・自衛隊・そしてボランティアの方々の活動には、感動を覚えます。

西予支部でも、7月14日には、有志によるボランティア活動に参加しております。

.....ご苦労様でした。

私としては、地元しか実際に見ていませんが、ニュースの報道等では、他の地域の惨状を見ます。

大変でしょうが、皆で頑張っていかれることを、期待したいと思います。



水没地域（約4.5m水没）



三嶋神社 社務所跡（完全流出）



氾濫水位（会館前）

肱川（宇和川）乙亥会館付近  
この橋も、約60cm 浸かったようだ。



約200m 流れ付いた社務所の屋根部分

# 「建築士として…」

松山支部 白石 学

このたび豪雨により被災された皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。建築士として、この災害で経験し考えた事を書きます。

そろそろ梅雨明けをしてもよさそうな7月の初旬、何日間も雨が降り続けました。

私は週末の天気予報を度々確認していました。それは構想から基本計画そして実施設計、工事監理と約3年あまり携わった大洲の喜多医師会病院が6月末で完成し、落成式と内覧会を週末に控えていたからです。

7月6日（金）その日も朝から雨でした。

最終打合せの為に大洲に入りました。

新病院から旧病院へ向かう道中では、東大洲を流れる都谷川の水位が上がり田畑との境が判らなくなっていたのでした。水害の心配が脳裏を過る…

設計段階では、病院の機能性だけでなく、耐震性向上のために制震ダンパーを設置し付加制震構造とした上で、大洲の過去の水害対策から病院と何度も協議を重ね、堤防の高さによる敷地造成高さの設定や擁壁の形状、そして止水ゲートの設置など災害対策を実施していました。

病院という機能上、主入口や救急、夜間、搬入など多くの出入口が必要です。そしてその全てが車椅子やストレッチャー対応によりバリアフリーの構造となる、そのことは建物内に容易に水が入る構造です。その対策として全ての入口に高価な止水設備を設計していました。

7月7日（土）昨夜から夜通し雨が降り続けました。高速道路は全面通行止めになり、国道も冠水し通行止め、松山から大洲へ状況確認には行けない状態になります。大洲市内も冠水で通行止めが多く現場監督も現地には行けない状態になりました。

病院の事務長から、「大洲是最悪の状況で明日の内覧会および落成式は中止する」との連絡が入る。

そして、病院施設管理課にて建物の出入口の止水パネルおよび止水シートの全て設置をした、との事でした。

先日の引渡しでの取扱説明にて10ヶ所以上の止水設備の設置方法を説明した矢先の事でした。

大洲市内全域に避難指示が出て事務長も防災センターに避難したとか、インターネット上のアップされていた絵像に愕然となる。

水没した東大洲一帯の映像。

しかし何もできない自分…

その夜は心配で食事も喉を通らなかった。



国交省の観測写真から

7月8日（日）その日の新聞に冠水した大洲市…

朝、事務長から電話が入り、水は引き病院には来る事が出来たと、しかし高速はまだ全面通行止め、56号線も通行止め、長浜からなら通行できるとの情報がありました。

長浜経由で大洲に向かう。途中いたるところで土砂崩れで道は泥だらけで片側通行の場所も、そして瀬戸内海は茶色に染まっていました。

大洲市内に入ると、凄まじい光景が目に入る。車はいたるところで横転していて、56号線沿いの店舗は壊滅状態、フェンスはなぎ倒され…

新病院も泥水が入っていたらと不安になりながら病院



国道 56 号線

に到着しました。病院の駐車場は泥だらけでいろいろな物が流れてきていましたが、建物の中は少し水が入っている状態で大量の土砂は入っていませんでした。

建物の外壁にくっつき残った泥水のラインは、入口の止水パネルのライン下でした。しかしその冠水した状態で水がひくまでに半日程度かかったようで、水抜き等の隙間から水が入ったのだと考えられます。



止水パネル

設備機器の高上げ設置やキュービクルの屋上設置により設備系統は特に異常ありませんでした。

その後、施工者と病院スタッフと駐車場の泥の除去や建物内の泥水の除去や清掃の日々、病院スタッフの中には自宅が被災した人もいたり、何日も水道の出ない地区の人もいる中で大変な状態での復旧作業でした。

移転の延期の考えも出たそうですが、被災した医療機関からの要請や、こんな時だからこそ迅速な開業を望む声があり、予定通りの移転オープンに決まりました。

10日間と言う短期間での慌ただしい作業、病院と施工者、設計者、立場は関係なく同じ目標で前を向いて、この事で良い絆も出来たかと思えます。

その間にもいろいろな意見や、報道・投稿も目や耳にしました。しかし自分の出来る事を信じて連日大洲へ。

日本は地震、津波、台風、豪雪、火山そして今回の様な豪雨、これらの災害から建築は命や生活を守る砦としての役割を持たなければならない、観測史上最大と言う気象災害が起こりますが、いろいろなケースを想定して、対応出来る建築を創らなければならないと考えた日々でした。落成式も内覧会も出来なかったですが、復旧作業の中で、建物の維持管理、災害への対応、迅速な復旧が可能な設備など、いろいろな事を学びました。

周辺地域の復旧はまだですが、7月18日のオープンの日の病院スタッフの気持ちの良い笑顔に少しホッとして泣きそうになりました。



全景

# 大庄屋・門屋家

宇和島支部 酒井 純孝

伊予松山市の堀江に松平藩の、大庄屋門屋家が旧街道沿いに長い土塀と長屋門がある。

門屋家は寛永5（1671）年門屋次左右衛門が和気郡の大庄屋を勤め、現在の建物は寛文11（1671）年弥右衛門の時代に造られたと伝えられている古い家柄である。

門屋家には大庄屋の役目柄、多くの古文書が遺され、屋敷の図面、藩主お成りの際の各家の役割を書き記した書類も遺されている。



平成修理完成の長屋門

門屋家は旧街道が折れ曲がる角地に位置し、寺に近く、村の家々に比べて圧倒的な屋敷を誇る。古図に残るお成り門は、今も藩政時代の大庄屋の家のたたずまいを彷彿させようと建っている。



旧街道沿いの土塀とお成り門

屋敷には主屋をはじめ、数棟の蔵が残されている。主

屋が創建された時代を特定できる記録が明確にならなかった。藩主がお成りになった日の代官や小姓が控える部屋を記した古い図面がある。その間取りは調査図・別紙（平面図）に添付する。

主屋は何度か増改築がされたと考えられる。現在の間取りと外観になったのは古図から藩政時代である。東玄関から表座敷へと四部屋続く表の間は、本陣と書かれた古図から見て藩政時代に建築。最も古い部分は、土間と台所に繋がる東に面する棟で、表座敷棟や主屋の裏に接続する角屋座敷は増築したものである。



平成修理が完成・式台玄関を望む

調査時、主屋の外観は茅葺き屋根に和風セメントスレート瓦を葺いていた。下屋部には和瓦土置き葺きであり、修理に於いては茅葺き屋根部分はガルバリウム鋼板一文字葺き、下屋部分は和瓦棧掛け瓦で施工を行った。下屋と茅葺き部分の屋根の大きさは外の民家で見ることのできない規模になる。

※調査時屋根は、茅葺き屋根の棟瓦はへの字瓦で厚は約50mmで、流れは600mmを有し、燻し瓦を創建時特別に造り施工していた。この瓦の一部は保存している。門屋家住宅は、300年をこえて現在に残された建築文化財である。

松山藩の大庄屋の暮らしぶりを今に伝えるかのように、藩政時代の間取りや形態、付属屋を残し、また、大庄屋の役割を伝えるかのように古文書、古記録、などがある。間取りの変遷、増改築の変遷、小屋組や構造の調査、損傷の状態などの調査を行い平成修理を行った。



調査時写真



創建時の土塀とお成り門と主屋



座敷の外観



折れ曲がる角地と主屋と蔵



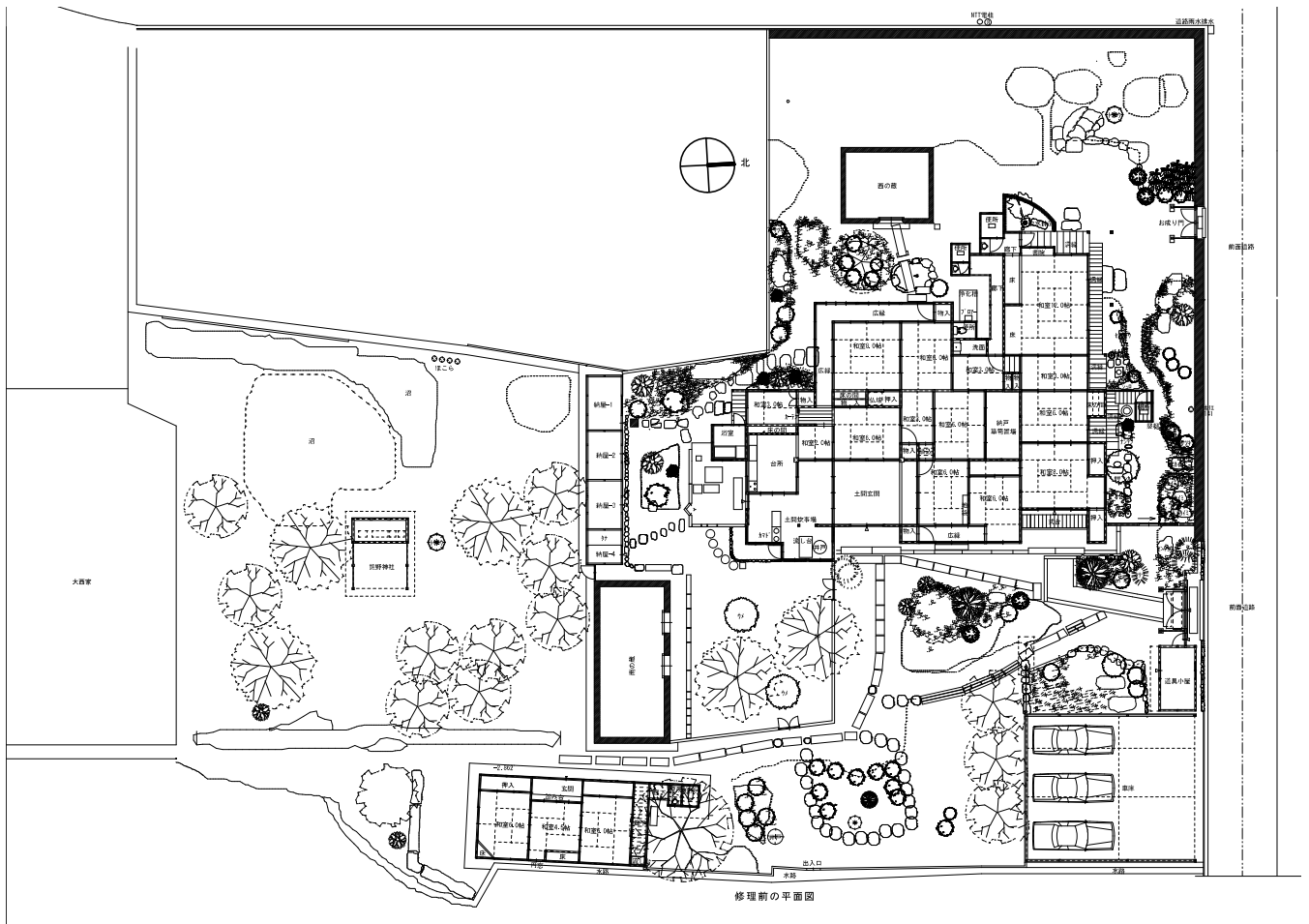
主屋の小屋組（茅葺きと構造）

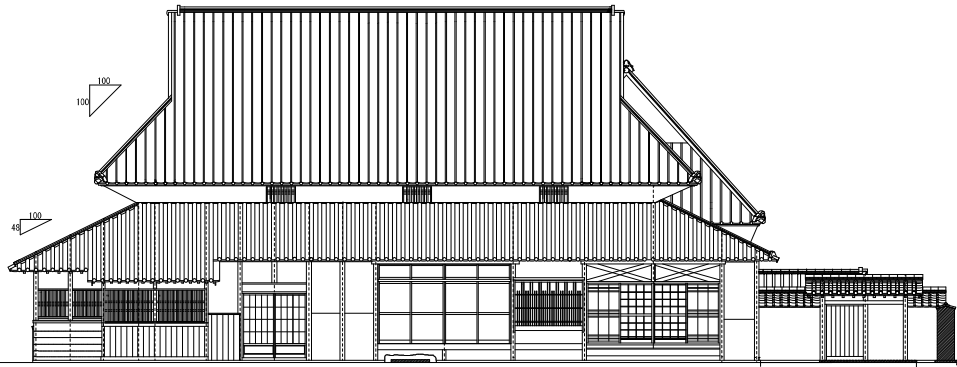


座敷からお成り門



座敷の小屋組（座敷は後補の小屋組）





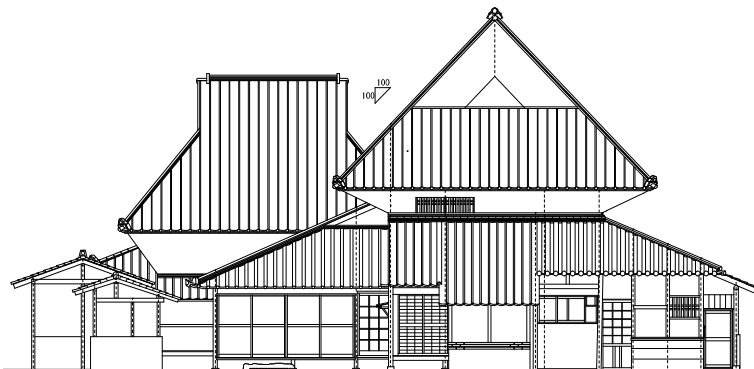
東立面図



西立面図



北立面図



南立面図

# 建築から草花、そして風景へ

スケッチ紀行

3

松山支部 安藤 雅人

「いしづち」の編集長が代わったので、締め切りが無くなって安心していただけるところ、大平新編集長から電話が掛かり、引き続き拙文を掲載させていただくことになりました。約2年に亘り、「くさぐさの風景」というタイトルで書いてきて、厭きた訳ではないですが、ネタ切れ予防のため、また、新しいことに挑戦するために、今回から、タイトルを「スケッチ紀行」に改めます。

現在まで続けている葉書サイズの水彩画を初めて描いたのは、リニューアル前の日土小学校でした。2作目が臥龍山荘、3作目が今回紹介する「三徳山投入れ堂」です。



三徳山投入れ堂

この頃は、下書きをしないで、ペンで直接に描いていたので、ラフな感じで味があるのですが、上手く行く時とそうでない時の落差が大きいのが問題でした。

そんな中で、この絵は、とても上手く行った方だと思います。こんな感じで描けるなら、もう少し、葉書

絵を続けてみようかなと思ったきっかけになったのです。後で考えてみると、美しい建築を描いたから、綺麗な絵が出来上がったという単純な理由でした。

皆さんご存知のとおり、古代に大陸から伝わった建築様式が、時代を経るにつれて、日本化して行きました。重厚な三重の塔の屋根と屋根の間に、裳階（もこし）（庇の一種）を付けて、軽快な六重の塔に変わったのが典型的な例です。あるいは、対称から非対称へという流れも日本的なものだと思います。どんどん軽快になり、宙に舞った日本建築の極が、「三徳山投入れ堂」です。

その後もずっとペンで建築を描いていましたが、誘われて登った皿が嶺で、山野草の花の魅力を知り、花の絵を描くようになりました。花びらを柔らかく、軽く描くためにペンを鉛筆に持ち替えました。何作も描きましたが、花の絵は建物と比べると、圧倒的に単純な構成なの



今治港内港

で、速く出来上がります。楽なので、益々好きになりました。でも一方で、物足りなさも感じました。もう少し骨が折れる絵に挑戦したい。そんな思いから、風景画にも手を出し最初に描いたのが、今治港内港です。

旅先で風景写真を撮っても、直ぐに忘れてしまいます。しかし、スケッチをすると不思議なくらいに忘れません。むしろ、記憶するために描いていると言った方が良いかも知れません。山を登って辿り着いたお堂の姿をくっきりと覚えています。また、今治港では、オープン間際の原広司さんが設計した、黒い海賊船のようなハーバリーと、取り壊し前の青い港湾ビルが併存している貴重な姿を記憶しています。記録でもありますが、「記憶」が大切でしょう。記憶には、色々な思い出が繋がっているのです。

最近、今治河野美術館で、学生の時に西洋美術史を教えていただいた画家で美術史家でもある早稲田大学名誉教授、日本芸術院会員の藪野健先生による、愛媛二紀展の公開批評会を見せていただきました。とても楽しくて勉強になったのですが、最後に、「安藤さんは、必ず来年の展覧会に出品してくださいね。」「建築学科で池原義郎先生に習ったのなら、絵が好きでしょう。」大きな絵を描くのが初めてなら、「50号の絵を2枚で良いです。」と、怒涛のように畳み掛けられ、約束をさせられてしまいました。

油絵も生まれてこの方、2枚しか描いたことがないのに、もし実現するとすれば、大きな挑戦になりますが、大好きな先生に勧められると、やってみようかなという意欲が湧いて来ました。思いが消えない内に、大きなキャンバスを2枚買って、部屋の中の目立つところに、転がしておこうと思います。

# 平成30年度 青年委員会総会開催報告

青年委員会副委員長 長岡 康広

場所：いよてつ会館2階 中國料理北京  
日時：平成30年6月30日（土） 18：15～  
参加人数 35人

平成30年度青年委員会総会及び懇親会が「いよてつ会館2階 中國料理北京」にて開催されました。

今年度から会長となられました赤根会長と大西事務局長にもご出席いただき、また元委員長の青陽さんをはじめOBの方にも参加していただき盛大に開催されました。

今年度は役員改選の年でありましたが、松平委員長と和田副委員長は続投となり、西森副委員長が退任となり、代わりを私が務めさせていただくこととなりました。

松平委員長の冒頭の挨拶では、新規会員の獲得のために、今年度から2級建築士製図試験対策セミナーの開催の提案があり、学科試験日の7月1日に受験者へ案内のパンフレットを配布することが報告されました。この時にはまだ内容については白紙の状態でしたが、最終的には、大街道のカフェを営業時間前に見せていただき、什器・備品の配置及び大きさの確認や厨房のレイアウトの確認、客・従業員・バックヤードの動線の確認を行い、その後、RC造の建築中の現場見学を行うこととなりました。また、建築士会を楽しく盛り上げようと夏には興居島でバーベキューの開催の案内がありました。

他県においては、20代、30代が中心となって活動しているところもあり、愛媛県においても20代、30代の方に積極的に参加してもらうために色々工夫を加えながらセミナーやイベントの開催等を行っております。2年後の2020年には東京オリンピックの前に「青年女性建築士の集い中四国ブロック愛媛大会」が開催され、県下より100名を超える会員の協力が必要となります。若手の会員の増強・イベント等への参加の増員のために、今までとは違う新たなことにも挑戦しながら、楽しい会にしたいと熱意ある挨拶がありました。

さて、総会の議題ですが、平成29年度事業報告・収支決算及び平成30年度事業計画・収支予算の報告があり、全会一致で承認されました。

先の中四国ブロック香川大会では、西森さんが坊っちゃんに扮しマイクを持ち、和田さんがマドンナに扮しプロジェクターの操作を行い、見事、最優秀賞に輝き、10月に開催される全国大会埼玉大会へ中四国ブロック代表として、発表することが決定しております。3年前の石川大会では惜しくも2位ということで、今年は絶対

に優勝すると青年委員会一丸となって、取り組んでおりますので、一人でも多く、全国大会さいたま大会に参加していただき、応援していただけたらと思います。



中四国ブロックでの発表風景

また、9月には若手建築志交流会（広島県）、11月には支部対抗ソフトバレーボール大会、その他技術講演会の開催等もありますので、今まで参加されたことのない方も今年こそは参加してみたいはいかがでしょうか。

最後になりましたが、皆様にはいつも青年委員会活動にご協力いただきありがとうございます。今年度も松平委員長のもと青年委員会を活性化させるため、「建築士会に入って良かったな」と思える会にするため青年委員会一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



青年総会の風景

# 平成30年度 青年・女性建築士の集い 中四国ブロック 香川大会の報告

今治支部 重松 憲太郎

開催日 平成30年6月9日（土）・6月10日（日）  
場所 レクザムホール（高松市）  
参加者 建築士会会員多数

香川県高松市で行われた【青年・女性建築士の集い  
中四国ブロック香川大会】に参加してきました。

今回が初参加の私は、まったく勝手がわからない状態でしたが、行けば何とかなるだろうということで流れに身を任せバスツアーにて現地に向かいました。今までも仕事絡みでバス旅行に行くことはあったのですが、大工さん、電気屋さん、左官屋さん等の職人さんや営業、事務関係の方と行くことが多かったため、今回のバスの中が全員設計士さんということが少し不思議な感覚でした。

2時間少々位（私は石鎚インターにて乗車）で高松市に到着した後、13：00より本大会が開催されました。

本大会は

12：00～12：50 受付  
13：00～13：30 大会式典  
13：30～15：20 地域実践活動報告会  
15：20～15：40 休憩・投票  
15：40～16：40 基調講演  
16：40～17：00 閉会式

という日程で行われました。

地域実践活動報告会では中四国9県の代表により活動の報告があり、各県とも工夫を凝らした発表を行いました。災害対策やワークショップ系などのいろいろな内容のものがあったと思うのですが、それらの中でも私の印象に残っているのは、岡山県の方がされた木造住宅の耐震化の取り組みについてのものでした。耐震化の重要性を一般の方々に広く知ってもらうための活動で、いろいろ工夫されているということでしたが、啓蒙活動の一環として独自の耐震ダンスを取り入れているという…。耐震ダンスといっても制震ダンパーや補強金物等の建築のシステムではなく、士会委員自らが音楽に合わせて耐震ダンスを踊るという、とてつもなくインパクトのある方法です。壇上で踊り狂う岡山県建築士会の方々に心奪われた瞬間でした。当然ながら私は岡山県に清き1票を入れさせていただきました。

愛媛県はというと、坊っちゃんに扮した松山支部の西森さんによる完璧な発表が行われ、1位を獲得することができました。バスでストップウォッチ片手にブツブツと練習する西森さん（行きのバスでは私は西森さんの隣に座らせていただきました。）すべてを丸暗記しているとの事で、記憶力低下が著しい私は感心しきりでした。「みなさんこんにちは！坊っちゃんです！」

あの会場の空気の中、堂々と言い放つ西森さんには神々しささを感じる事ができました。全国大会もがんばってください！！

大会後の大懇親会はサンポート高松・大型テント広場で行われました。室外ということで解放感あふれる懇親会でした。日頃は他県の設計士さんと交流することはあまりないので、香川や広島、島根県など色々な県の方とお話しすることができ楽しいひと時を過ごせました。

2日目はエクスカージョンが行われました。

コースA 小豆島 アート作品を巡るコース

コースB 宇多津の町屋とうどん体験

コースC 高松まちかど漫遊帖 旧体育館 北浜アリー編

コースD 栗林公園 散策とお茶室体験コース

という4コースより希望コースを巡るもので、私はコースAの小豆島に行かせていただきました。小豆島は瀬戸内国際芸術祭の展示会場となっており多数のアート作品が展示されています。以前男木島に行ったことはあったのですが、小豆島は島自体が大きくそれとはまた違った印象でした。点在するアート作品を鑑賞しながらぼんやりとすることができました。

↓は唯一撮影した「オリーブのリーゼント」



最後になりますが、今回のブロック大会に向けて準備されてきた建築士会の皆様、お疲れ様でした。

また、今大会を運営された香川県建築士会の方々には大変お世話になりました。大会の準備から進行、懇親会での盛り上げや、エクスカージョンでの案内など、色々大変だったと思いますが、心よりのおもてなしをして頂き感謝しております。

# 平成30年度青年・女性建築士の集い 中四国ブロック香川大会「分岐点」に参加して

四国中央支部 大西 千里

開催日：平成30年6月9日（土）～10日（日）

場 所：レクザムホール（香川県民ホール）小ホール

参加者数：女性会員6名

中四国ブロック香川大会に参加してきました。隣県ということで馴染みの深い高松での開催。参加申込をした日からとても楽しみにしていました。

地域実践活動報告では、各県工夫を凝らした発表で楽しみながら聞くことができました。特に印象に残っているのは岡山県の発表です。子供から大人まで住宅の耐震化に興味を持ってもらえるように、岡山県内のマスコットキャラクター17体が耐震ダンスを踊っている動画を製作していました。岡山県民になじみのあるキャラクターを出演させることで子供が楽しみながら見られる内容となっており、とても参考になりました。

基調講演は瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター北川フラム先生の講演でした。直島にある私の大好きな草間彌生さんのアート作品「南瓜」についてのお話も聞くことができました。これまで直島には作品を見に2回行ったことがあります。北川先生の講演を聞き、もう一度直島

に行き、また違った目線で作品を見たいくなりました。

二日目のエクスカージョンでは栗林公園に行きました。近くにある名勝にはなかなか行かないもので、今回初めての栗林公園でした。ボランティアガイドさんが丁寧に説明してくださりました。後でガイドさんから、担当の女性委員の方々は昨年の冬から何度も通われて事前学習、準備をされていたと聞きました。

今回、香川県建築士会の皆様のおかげでこれまでとは違った高松での時間を、とても有意義に過ごすことができました。来年の島根大会が楽しみです。



【北川フラム先生の基調講演の様子】

# ブロック大会に参加して

松山支部 大西 慶

6月9日、10日に開催されました、平成30年度青年・女性建築士の集い中四国ブロック香川大会「分岐点」に参加しました。ブロック大会への参加は初めてで、昨年はどうしてもスケジュールが合わず、この大会への参加は楽しみにしておりました。

大会1日目はオリーブグリーンを纏った香川県建築士会の皆さんのお出迎えで、高松市玉藻町のレグザムホールの開会式からスタートしました。

各県のカラーシャツを身に着けた総勢370名の集団・ホールの中は少し異様な光景でした。中四国ブロックのメンバーだけでも、これ程の彩りがあって、その中でも、やっぱり愛媛のオレンジ色が鮮やかでいいな、と思っていました。また色だけではなく、会場の一人ひとりが各々にエネルギーを発して、一見すると騒がしいようですが、きちんと全体は調和がとれているという、なんとも不思議なものでした。



その後の地域実践活動報告では、先述のエネルギーの正体を知ることになりました。それは「真剣であること」です。教育、地域活性化、防災・それぞれの地域で、建築士として何が出来るのか、何をすべきか、真剣な姿勢で取り組まれているのだと感じました。1人では、なかなか成しえない事であっても、同じ志を持つ仲間が知恵を出し合い、力を出し合えば、思いもよらなかった成果を生みだせることを、みなさんの発表を通して痛感いたしました。また発表の仕方についても、スライドの見せ方だけでなく、動画あり、踊りあり、コスプレあり・趣向が凝らされており、勉強させて頂きました。

投票・審査の結果は、なんと愛媛県が最優秀！中四国ブロック代表に選出されました。この時は「オオッ」という響きとともに、オレンジ軍団は手を叩いたり両手を上げたり、坊っちゃんと共に喜びを爆発させました。初参加の大会で、目の前で同じ県のメンバーが表彰されるのは、やはり嬉しいことです。私も発表の瞬間は思わず立ち上がり、手がジンジンするほど拍手をしていました。立派な発表でした、本当におめでとうございました！

さて興奮冷めやまぬまま、プログラムは北川フラム先生の基調講演に移りました。瀬戸内国際芸術祭の総合ディレクターを務めていらっしゃる先生のお話の中で、特に印象に残った言葉があります。

「芸術とは、人と自然とが、どう関わってきたのかを明らかにするものである」

これに私は強く共感するとともに、同じことが建築にも言えるはずだ、とも思いました。さらに先生は

「芸術作品には手間もかかる、お金もかかる、それは地域に生まれた赤ん坊のようなもの」

とも仰っており、親子2代ほどの時間を掛けて、地域に住む人たちと共に芸術を文化に育てていくことが重要であると話されていました。



大会2日目はエクスカージョンで、私は旧香川県立体育館を見学するCコースに参加しました。

旧地図を片手に、ことでん今橋駅から歩いて移動です。かつては海だった場所が埋め立てられ、道路のつきかたが変わり、新しい町の形が作られていく・そんな歴史を教えてくれるポイントをめぐって、町の物語が語られていきます。実際に自分の足で歩いてみないと見えない・分からないものは多く、発見がある度にその背景まで知りたくなるものです。

また丹下健三設計の建物を見る時、私は決まって奇妙な感覚に陥ります。それは、まるで能を見ている時のような、手足の指先まで緊張が走る感覚です。現代人特有の「お茶を濁す」という空気が感じられない、あらゆる方向から建物の隅々まで集中力を切らさない強い意志が、丹下建築にはあると思っています。残念ながら今は使用されていないようですが、ぜひとも保存・活用の道を歩んで欲しいと心から願います。

振り返れば贅沢な、あつという間の2日間でした。繁多な日常を離れ、たいへん有意義な時間となりました。貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

僭越ではございますが、2年後の愛媛大会ではぜひ、スタッフとしてお手伝いをさせていただきます。



# 平成30年度女性会員総会開催報告

女性委員会委員長 近藤 佳代

開催日 平成30年6月23日(土)  
場 所 松山三越8F サロンレストラン

平成30年度女性会員総会が無事終了いたしました。今回は前半に愛媛県建築士会女性委員会の初代委員長を務められた二宮初子氏をお迎えし座談会を開催し、後半は通常の総会を開催しました。

愛媛県建築士会の女性委員会が正式に発足したのは今から32年前、1986年6月のことです。

二宮初子氏ほか9名でのスタートでした。その女性委員会も今は正会員128名、準会員3名という規模になりました。会員数で言えば14倍以上に増えました。

女性委員会設立当時1986年、私は何をしていたのか振り返ってみると、ちょうど大学に入学した年でした。某女子大の住居学科で学んでいた時期でした。男女雇用機会均等法が施行された年でもあります。私は女子大に通っていたので周りは女子ばかり。特に違和感はありませんでしたが、男女共学の建築学科では女子生徒はほんの一握りしかおらず、建築業界において女性建築士はとても珍しい存在でした。それ故、当時の女性建築士は私の想像をはるかに超える苦勞があったことでしょう。

そんな時代に女性建築士として活躍されていた二宮氏のお話はとても興味深いものでした。また、今回の座談会には初代女性委員会のメンバーや歴代の女性委員長にも多数参加していただき、色々な思い出話に花が咲きました。同窓会のような和やかなムードで総会の前半は終了しました。今年米寿を迎えられる二宮氏。これからも私たちに刺激を与えてくれる存在でいて欲しいです。



参加者の皆さん

昨年度の事業報告

6月 中四国ブロック青年・女性建築士の集い 鳥取大会への参加(4名)

7月 全国女性建築士連絡会議(東京)への参加(5名)

8月 こども・けんちく学校2017夏(八幡浜港拓イベント内にて、学習発表会、こども建築ガイド等実施)参加者約250名。

11月 暮らし+ (プラス) 勉強会開催。カルトナー ジュ体験講座を開催。(12名参加) 毎日の暮らしにプラスすることで日々の生活が楽しくなること、をテーマに昨年度より開催した勉強会。継続予定。

12月 建築士会全国大会(京都)への参加(10名)

1月 新年会開催。懇親、意見交換等。(21名)

1月 中予地区見学会。道後オンセナート関連の作品等見学。他県の女性建築士の方にも参加していただきました。(37名参加)

昨年度も皆様のご協力により、事業を実施することができました。この場を借りてお礼申し上げます。

今年度の事業予定および実施済事項

6月 中四国ブロック青年・女性建築士の集い(香川)への参加(6名)

7月 全国女性建築士連絡会議(高知)への参加(9名)

8月 スキルアップセミナー開催(今年度より開催の新規事業)佐藤 実氏を迎え、木造住宅の耐震性能等についてのお話をしていただく予定。

9月 南予地区見学会予定(詳細は未定)

10月 建築士会全国大会(さいたま)出席予定

11月 暮らし+ (プラス) 勉強会開催予定

1月 新年会開催予定

2月 異業種交流会(福祉関係のセミナー予定)開催予定

9月以降に実施予定の事業については、日時が決定次第、開催案内をメールや会報誌、士会ホームページにて発信予定です。女性会員だけでなく、男性会員および一般の方にも多数参加していただきたいと思います。

これからも愛媛県建築士会女性委員会の活動にご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

# 伊予稲荷神社楼門塗装替え研修会

伊予支部 渡辺 大記

開催日：平成30年5月12日（土）  
場 所：伊予稲荷神社  
参加者：伊予支部会員10名 市民団体10名

平成30年5月12日土曜日AM11時30分より伊予市稲荷の正一位伊予稲荷神社「楼門塗装替え工事」の現場見学会に参加致しました。

当日は天候もよく、支部会員10名の他、松山の市民団体の方も10名程参加されており、全員で20名程の出席者となりました。

まず初めに、神社敷地内にある宝物殿の内部展示物の説明を伊予稲荷神社宮司 星野暢廣様にして頂きました。陶磁器、絵馬、絵画、書、刀剣等、参加者全員興味深く見学しておりました。

その後、本日のメインでもある、楼門の塗装替え工事の研修に入りました。説明をして下さる講師の方は、（公社）愛媛県建築士会文化財・まちづくり委員会委員長の花岡 直樹氏です。他にも工事を手掛けられた塗装業者の方にも立ち会いをして頂きました。

まず楼門の概要説明がありました。



伊予稲荷神社楼門

この楼門は、三間一戸で屋根は入母屋造り本瓦葺である。その容姿はよく均整がとれている。

手法は和様と禅宗様（唐様）の様式を兼ねそなえ、臺股には桜・唐草などの思い思いの浮彫りが施され桃山風が表れている。柱はすべて円柱で、下部に粽をつけ礎盤をそなえている。伊予の名工といわれた余土の治部の作

と伝えられ、次のような楼門棟札が残っている。  
寛文二壬寅年

奉造稲荷神社楼門口玉体安穩太守武運氏子繁昌之所  
九月吉日 正遷宮神主高市大太夫藤原盛芳  
寛文2年（1662）で江戸初期の建築である。

以上のような資料を頂きました。塗装替え工事の方はほぼ完了している状況でしたがその中で塗料の調達、塗装工程、工法等詳しく説明して頂き、参加者も熱心に耳を傾けていました。又、質疑等に関しても快く返答をして頂き感謝しております。以前塗装替えを行った時期は、約30年前という事で節目の時期に立ち会う事が出来ました。尚、今回この研修会が支部会員と一般市民の方とのつながりに少しでも貢献できていれば幸いです。



鳥居



参加のみなさま

# 建築士会に入会して

四国中央支部 稲村 聡

この度、新居浜支部の浅野さんからバトンを受け取りました、四国中央支部の稲村と申します。建築士会に入会してもうすぐ一年が経過しようとしています。まだまだ新参者ですがよろしくお願いたします。

さて、入会して間もない私が何を書こうかと考えましたが、建築士会に入会してこれまでの軌跡を振り返りながら書くことを書こうかと思えます。

まず、私の会社は(有)稲村組と申しまして、型枠業と土木一式を営業品目としています。建築については躯体関係には強いですが、それ以外はまだまだです。大学が建築学科だったのですが、家業が型枠会社だったので大学卒業後二級建築士のみ取得したら、いくつか増改築の案件を片付けてはみたものの、次は土木の一般施工管理を取得して土木一式の分野を伸ばしてまいりました。

(時は土木全盛期の名残が尚残っており、高速道路やダム、橋などの躯体を多数施工してまいりました)そのような事で建築士の資格は持っていても全然活用していない状態でした。そんなある日、地元のとある先輩経営者の方と同じバスで研修旅行に行った道中のことでした。何気ない会話の中に建築士会というキーワードが出現した時のことです。

「私、二級は持ってますよ。全然使ってないですけどね」  
 「なに、そしたら建築士会に入れ」、  
 「いやいやいや、そんな急には入れませんよ、ワインやらなんやらお接待してくれたら考えますけど」、  
 「わかった、じゃあ今度空けときなさい」、  
 (内心、しまったな、もっとふっかけとけば良かった)  
 「わかりました、では後日接待して下さい」、  
 以上のような感じで何もわからないまま入会したのが最初でした。(先輩、その節はごちそうさまでした笑)

そうして、入会してみると地元の青年委員2名と出会うことができました。そうして最初の事業である紙まつりブース出展が始まりました。今でも覚えています、カキ氷が30秒で溶ける灼熱のアーケードの中で、子供向けにペーパークラフトを一緒に組み立てながら耐震診断等のチラシを配るという事業でした。暑い、忙しい、暑い、と大わらわで取り組んでましたね。そんなこんなでしていると、今度は県の青年委員会へ行きなさいとお達しが。また新しい出会いがあるものとドキドキしながら愛媛県建築士会事務所へ赴きました。松平委員長以下、初めて出会う各支部のメンバーの方々、多少緊張しながらも名刺交換をさせて頂き、委員会の流れを把握しようと聞き耳を澄まして議事進行を見守っていました。有意義な時間を過ごせて勉強になったように思えます。

そういった活動の中で地元の総会・理事会、県の総

会・青年委員会などに参加していくうちにたくさんの出会いがあり、多くの面白くて楽しい方々と交流を持つことができました。その流れのなかで刺激を受けていくうちに、昨今の新しい技術、価値観、環境の変遷によってどんどん新しい概念の住宅や建築物が生まれてきてる現状に興味がわいて来ました。折しも地元の青年委員会もこの一年弱で多くの新顔メンバーが顔を出すようになりました。4月から新たに一期二年の四国中央支部青年部長の役をお預かりするなかで、私としては建築士会の看板を利用して支部の青年メンバーみんなが時代の変遷に対応しつつ、自分たちの存在価値を高めたい、楽しい時間を過ごせる委員会運営を心掛けていきたいと考えています。そうしたことで私自身も勉強させてもらえればありがたいと思っています。

次に今年の四国中央支部青年委員の活動ですが、メンバーの意見を聴く中で、とにかく建設業界のイメージが悪い、建築士の存在価値をもっともっと高めたい、などの意見が多数出されたことによって、来年度に子供たちに向けて建築士会・建設業界のイメージアップと存在価値向上に繋がる事業を構築していくことになりました。まだまだ構想企画中ですが、地域の中で求められる存在になれるよう色々と模索しながら事業を行う予定です。その他にも青年委員主催の勉強会の開催、市内の歴史的建築物の探訪など色々企画しています。乞うご期待。

昨今の時代の流れはとにかく早くて、同じ知識・技術・商品で仕事ができるスパンがどんどん短くなってきている感じがします。そんななかでも同じ地元、同じ建築士会の仲間として一緒に高め合える、そんな会になればいいなあと思う今日、この頃でした。

次のバトンは同じ支部の受川くんにはバトンを渡したいと思っています。



四国中央支部青年委員会風景

# 宇多津の町を巡って

宇和島支部 山田 千尋

宇和島支部田中陽子さんからバトンを受け取りました、山田です。私は愛南町在住なのでなかなかイベントや会に参加できません。が、最近では田中さんに引っ張られながらなるべく参加させて頂いています。そして先日6月9.10日の中四国ブロック大会にも参加させていただきました。実は何年も前からこの大会の存在は知っていたのですが、なんかスポーツの大会でもあるのかな？とあまり詳しく分かっていませんでした。大会の意味を知る前に去年の鳥取大会に参加させて頂き、とても楽しく有意義だったので今年も香川大会に参加させていただきました。大会当日の活動報告会では感動し（それぞれの県で、建築士として色々な活動をしているんやと言う事も含め）交流会では楽しく過ごさせていただきました。2日目は香川の方が考え、おもてなししてくれたエクスカージョン。ここではその時の話しを書きたいと思います。

私が参加したのは「宇多津の町家とうどん体験」私は古き良き街並みが好きなので。町家。そしてうどん！まず始めに行ったのが宇夫階（うぶしな）神社。拝殿もとても立派でしたが、特に感動したのは本殿。なんと伊勢神宮の旧正殿でした。昔ここの本殿が火事になった時に貰い受けたそうで、教科書でしか見た事ない建物が見れた！と喜んでいました。このエクスカージョンで来なければ、この地に伊勢神宮の建物があるとは一生知らなかったかもしれません。



香川のガイドさんに色々和教わりながら宇多津の町並みを歩きました。ところで宇多津、読み方わかりますか？私達3人のグループでは「宇多津と、うだつが上がないのうだつは関係があるのか？を調べる。」と勝手に自分達に課題を出していました（笑）結果は。。「関係ない。」です。それもそのはず、宇多津（うたず）なんです。香川には多度津（たどつ）という地名もあります。全然違うのに混乱していました。電車乗るとき多度

津の金額見たりとか。。。そんな宇多津ですが（笑）なんとこの人口減少の世の中で、人口が増えている町なんだそうです。しかもゴールドタワーというタワーがあったり水族館も近日出来るとか。確かに地理的に瀬戸大橋が近くにあり本土からも人が来やすい。やけんかあと納得しているとガイドさんから、「それもあるけど、どっちかというに出て行った子供達が帰ってきたり新都市に住んで町を出て行かん子が多いよ。3世帯で宇多津に住める」と。

なんて素敵なんだと思いました。私が住む愛南町は年々人口が減っていく一方なので。

宇多津は昔塩田が盛んだったそうです。その塩田を埋め立て、商業施設やマンション等を建てたようです。交通の便や住みやすさから出て行かなかったり帰ってきたりするんですね。そして新しいものだけではなく、昔ながらの街並みや神社のある町だからこそ住みやすい、帰って来たいと思える町なんではないかと思いました。愛南町でも何か見習わなくては。。

その後は昔の和の建物に繋がるとんがり屋根とステンドグラスの付いた西洋の建物、当時異様であったであろう、でもなぜかしっくりくる、登録有形文化財の「倉の館 三角邸」



他にも町に残る古き良き建物、点在する神社等、宇多津の町を巡りました。ガイドしてくれた方の中に、町並み保存やリノベーションをされている設計士さんがいらっしゃり、「町を歩いてください。歩かないと何も分かりません。」と言われてました。その言葉に感動しスマホにメモ。自分の町を歩こうと決意。まだ実行されてませんが（笑）

そして最後はうどん！今回も楽しくほんとに有意義な時間を過ごさせていただきました。

次は松山支部の内田かおりさんです。

## HOUSE



7

ブレイクコーナー

母が逝ってから三ヶ月が経った。私は夕方六時丁度に工場を出てコンビニで一人分の総菜を買う。公営住宅のコンクリートの階段を上がり、重い鉄の扉を開けると夏の陽で蒸せた空気が身体に纏わりついた。

長い間、母娘二人で暮らしていた3DKの住まいは、衣装持ちだった母のせいで随分と手狭になっていた。それらを整理してしまうと、箆箆二竿と一間の押入が空いて、四人掛けのダイニングテーブルも処分した。「美香ちゃんも随分と割り切ったねえ」と皮肉を言う親戚もいたが、襖一枚、鍋ひとつにも母の気配が残されていて、私にとっては充分すぎるほど哀しい。食器棚に残された茶碗や湯呑も処分して、ここからは独りの人生、と自分に言い聞かせて顔を上げてみたが、やはり引越すことだけはできなかった。

独りになってから浴槽に湯を溜めず、シャワーで済ませることが多くなった。外の怠惰な空気と汗を早く流したい。けれど使用前に風呂場の隅々まで洗う習慣はずっと守られていて、そうしないと身体が清まらないように感じる。入浴前の儀式のように、大きなスポンジに泡をたっぷり含ませて床に屈んだ。そして目の前の浴槽の淵に、一本の黒髪が張り付いているのを見つけた。空色のFRP素材の浴槽に、30センチほどの黒い線がゆるりと曲がっている。自分のでも母のでもない、体内に異物が入り込んだような、強い違和感。明らかにここにあってはならないものだ。咄嗟にスポンジで払ったが、異物は泡へ絡みついて離れない。私は台所へ走り、スポンジごとレジ袋へ突っ込んだ。そうしてから、ようやく自分が何をしたのかを自覚して、小さく震えた。

それから私は、帰宅すると真っ先に風呂場へ向かい黒髪を眺めるのが日課となった。浴槽に張り付いた黒い線は必ずどこかに存在していて、その曲線は何かを主張しているようにも見える。留守中に侵入者がいる、と役所へ訴え警察が調査に来たが、風呂場だけを使う不審者という奇妙な出来事は肉親を亡くした娘の精神を疑われて、ひと月程でうやむやになった。

その日は新入社員の歓迎会で帰宅が夜中になった。左右に分かれた何棟もの同じ長方形が闇に無言で横たわっている。全てが規則正しく、小さな灯が所々に点在していた。ふと、自分の部屋に灯が見える。

「いる！」

風呂場の窓だ。全力で階段を駆け上った。扉の鍵穴に鍵がなかなか入らない。震える手でドアノブを回して中に入ると風呂場のドアから灯と声が漏れていた。女だ。

「だれ！」

ドアを開けて叫んだ。

「ごめんなさい。どうしても頭が痒くてたまらんのよ」

女はシャワーに手を伸ばそうとしていた。そして、その手を止めて、ゆっくりと振り向く。黒髪の彼女には、左の顔が無かった。この世の者ではない。私は生きている者の持つ本能で、それが異者であることを知った。シャワーの音だけが時間の流れと、この出来事が事実であることを証明している。

「すぐ出るから」

彼女は再び背を向けて、シャワーを浴び始める。私は静かにドアを閉め、リビングまで来ると力が抜けた。絶対に見てはいけないものを見てしまった。

「母さん、どうしよう」

呪文のように呟きながら震えていると、すうっと部屋の空気が揺れる。彼女が私の前に座った。目を上げると、セーラー服を着ている。左側だけ髪を垂らして、意外にも微笑んでいた。

「あの、どなたでしょう」

「あら、私のこと忘れた？」

「はい、すみません」

「アタシよ、百合子よ。すずちゃん」

セーラー服、関西訛りの幽霊を正面から見ると、思いの外若く、服装に似合った高校生くらいに見えた。「すずちゃんって、だれ、でしょうか？」

「石橋鈴子さん、でしょ」

「あの、鈴子は母です。それから結婚したので岡田になりました」

「ええええ！じゃあアナタはすずちゃんの娘？」

「はい、美香です」

幽霊は本気で驚いたようだ。身体の一部が所々薄くなったり消えたりを繰り返している。

「私は園部百合子、すずちゃんにはとてもお世話になったんよ」

そう言われても、母から彼女の名前を聞いた記憶はない。

「お話、長くなりそうだから麦茶でも頂けないかしら？」

百合子さんは高校生の姿で、しかし老婆のような

## 第1話 Bathroom

田真 夕楽  
たま ゆら

ブレイクコーナー

重たい落ち着いたのある口調で話し始めた。幽霊でも麦茶は飲めるらしい。

1995年1月17日5時46分。細い路地と古い木造住宅の並んだ神戸灘区の一部、アパートの二階で鈴子は飛び起きた。春から大学生となって初めて迎えた冬、永い一日が始まる。

身体を突き上げるような凄まじい振動、部屋の電気は点かなかった。そのうち沈むような感覚がしたかと思うと、一気に天井が落ちてきた。真っ白な埃の中、着ていた布団を握りしめ立ち上がると、すぐ横に地面がある。嗅いだことのない奇妙な匂いと悲鳴や呻き声、ただ立ちすくむしかなく、茫然としていたらまた地面が唸りはじめた。

「すずちゃん、早く逃げんと！」

隣の部屋に住む圭太の声が鈴子を我に返らせた。彼はこのアパートの大家の息子で、初めての一人暮らしをする鈴子に親切にしてくれていた。

「地震、もうアカンわ、僕の手を掴まれ」

手を伸ばすと、掬い取るように圭太は鈴子の手を引き寄せた。

「なんか履くもんじゃないか？」

散乱した中からトイレ用の赤いスリッパが見える。落ちた瓦に気を付けながら拾うと、すぐ後ろで何かが動いた。

「百合子ちゃん！」

瓦礫から伸びた手は、一階に住んでいた園部家族の長女、百合子に間違いない。圭太と二人で埋もれた百合子を引っ張り出そうとしたが、二本の柱が彼女の下半身に乗りかかり、そして、左半身はすでに押し潰されていた。

「誰か人を呼んでくる」

圭太のバイクは奇跡的に無事で、エンジンがかかった。牛乳配達の仕事に行く直前で、キーが刺さったままだったのだ。

「圭太さんがすぐ応援呼んで帰ってくるから、百合子ちゃん頑張って」

「すずちゃん、あのね、頭が痒いんよ」

「わかった、病院に着いたら頭洗ってもらいましょう」

空気が焦げ臭くなった。黒い煙が流れてくる。この辺りの家のほとんどが、石に柱を乗せただけの基礎で、筋交いの少ない瓦屋根の木造軸組構法住宅だった。後に、死亡者のうち5000人近くは軸組構法の住宅の下敷きになり圧死したと判る。

百合子は、鈴子の手を握りしめたまま、暗闇に沈んでいった。

「あの辺りは台風がよう来てね、だから重い瓦屋根の家が多かったんやと思う。それに屋根に土を葺いて乗せただけやったから」

麦茶をひと口飲んで、百合子はため息をついた。

「阪神淡路大震災って父さんも母さんも大学生の時だったのね」

「父さんって？」

「父は岡田圭太です。私が小さい時に亡くなりましたけど」

「ええええ！」

また百合子の身体が点滅を始めた。

「あの、いつでもお風呂、使ってください」

私が言うと百合子はゆっくりと首を横に振った。

「ありがとう。でも美香ちゃんに会えたから、もうええよ。

アンタ、すずちゃんと同じ匂いしてるから間違えてしもたんやね」

グラスに残った最後のひと口を飲み干して、百合子は左手を振った。

「最後に独りにせんといてくれて、ありがとう」

仕事から帰ってくると、私は一番に風呂場へ向かう。浴槽を丁寧に洗う習慣は、母が「いつお客様が来てもいいように」と教え込まれたものだったが、よくよく考えてみると、家に泊まりにくるような客は殆ど無かったはずだ。

日中は夏の気温だが、朝夕になると秋の気配が感じられる。今日回ってきた回覧板には「来年から公営住宅の全棟で、順番に耐震工事を始めます」と記されていた。

私は高校を卒業後、すぐに就職した食品工場を辞めることにした。親戚に報告すると「やっぱり蛙の子は蛙ね」と妙に納得されてしまったが、私の記憶のないうちに逝ってしまった父は、ハウスメーカーの設計士だった。

春から私は、6年間の予定で建築士の専門学校へ通うことを決めた。命を守る、家を建てたい。

了

## あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしていきます。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。  
(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承下さい。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

平成30年 11月号(125号) 平成30年9月20日(休)

※ 校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※ 1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかも知れませんので、予めご了承下さい。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がれば、と願っています。

情報・広報委員会

## 読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せ下さい。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(土会事務局内)宛

— FAX 948-0061 —

## 編集後記

この「いしづち」を、会員だけでなく一般の方にも楽しく読んで頂けるために、そして読者を増やすために、前号から新たな試みを行っています。

前回の7月号から表紙画を上田勇一先生にお願いすることになりました。

そして、今回の9月号からプロの作家である田真夕楽先生に建築を題材とした連載小説「House」をお願いすることになりました。お二人とも、建築にゆかりのある方で、私の個人的な知り合いです。

建築士会を楽しく盛り上げていきたい。と言う私の気持ちに賛同して無償で協力して頂くことになりました。本当に感謝です。

私一人では何もできませんが、得意な分野で活躍をされている方に記事を書いて頂くことで、魅力的な読みたくなる広報誌になると思いました。会員の皆様にも、この方に広報誌の原稿協力して貰ったらどうだろうか。という推薦や情報提供を募集します。よろしくお願ひします。

また、この「いしづち」を、どのようにすれば会員、一般の読者に楽しんで頂けるか。建築士会の会員を増やすためにはどうすべきなのか。など。いつも、情報・広報委員会では、編集委員会が終わったあとに熱い議論を繰り返しています。委員と今後の建築士会について語りたい。と言う方がいらっしやいましたら遠慮なく委員会に参加して頂きたいと思ひます。

広報委員会開催日時

・9月28日(金) 18時～ ・10月5日(金) 18時～ ・10月12日(金) 18時～

場所:松山市千舟町4-4-1 グランディア千舟3階A号 建築士会会議室(入口は千舟町通りになります。)

※田真夕楽先生ですが、無償での連載のため、本来のペンネームでは掲載できず、「いしづち」用のペンネームで連載して頂く形となりました。

(大平将司)

## 〈いしづち〉2018/9

平成30年9月発行

発行人 **会長 赤根 良忠**

発行所 **公益社団法人 愛媛県建築士会**

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5

TEL (089)945-6100 FAX (089)948-0061

http://www.ehime-shikai.com E-mail: info@ehime-shikai.com

印刷所 明星印刷工業株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長 大平 将司 副委員長 渡邊 道彦

編集委員 大上 恵子 山本 晶子 政石 信行 白石 学 武智 良太 成松 弘之助

# ☆会員の皆様、住所等が変更になった時には事務局までお知らせください。(FAX 089-948-0061)

公益社団法人 愛媛県建築士会

## 会員住所等の変更届出

この様式は愛媛県建築士会の会員名簿データの変更のみです。建築士のデータの変更には使用できません。

【正会員・準会員】

		支部		年	月	日
ふりがな		生	大			
氏名		年	昭	年	月	日
		月	平			
		日			性	
					別	
変更部分のみ記入して下さい	現住所	〒		—		
		TEL		FAX		
	勤務先	〒		—		
	所在地	TEL		FAX		
建築士資格	一級・二級・木造・準		登録年月日	昭・平	年	月
			登録番号	第		号



住所等に変更のあった建築士の方は下記の書類も提出してください。

### 建築士法上の住所等の届出については下記のとおりです。

建築士住所等の届出の次の記載事項(①～③)に変更があった場合、変更があった日から30日以内に(公社)愛媛県建築士会に申請者本人が届け出てください。

- ①住所、本籍等
  - ②建築に関する業務に従事する者にあつては、その業務の内容
  - ③勤務先の名称(建築士事務所にあつては、その名称及び開設者の氏名)及び所在地
- 書式は愛媛県建築士会のホームページからダウンロード出来ます。

### メールマガジンで講習会や勉強会などの情報をご案内

メールマガジンにご登録いただいた方には、講習会や勉強会などの情報をメールでご案内します。登録メールアドレスはパソコンアドレス、携帯アドレス、どちらでも可能です。

ご案内メールの登録・変更・解除はHPから

<http://www.ehime-shikai.com/mailmagazine>